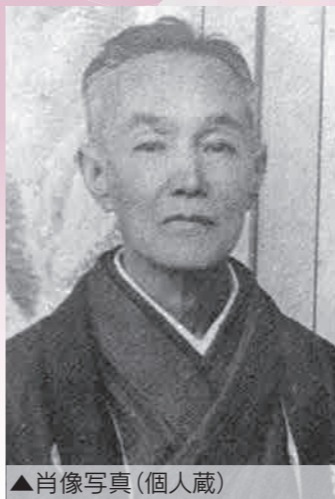


このひとをじっくり見ますか？

第10回

江森天淵 えもり てんえん

(安政4年～大正10年)



▲肖像写真(個人蔵)

江森天淵は、安政四(一八五七)年一月二十六日、榛沢郡用土村現在の寄居町用土に朝比奈錦香の次男として生まれました。本名は鵬助(たけすけ)とします。

朝比奈氏は、鎌倉時代の武将として知られる和田義盛を父にもつ朝比奈二郎義秀が祖と伝えられる家系で、代々医業を継承しました。天淵の父錦香も、医業の傍ら絵事を学びました。天淵は家業の医学には関心がなく、幼い頃から父に絵を学び、熱中していきまし

た。朝比奈氏は、鎌倉時代の武将として知られる和田義盛を父にもつ朝比奈二郎義秀が祖と伝えられる家系で、代々医業を継承しました。天淵の父錦香も、医業の傍ら絵事を学びました。天淵は家業の医学には関心がなく、幼い頃から父に絵を学び、熱中していきまし



▲仏画(東方地内全久院所蔵)



▲四山一白(個人蔵)

る福島柳園に学びました。明治十四(一八八二)年二十四歳の時、幡羅郡東方村現在の深谷市東方の江森たま結縁江森家を継ぎ、これを期に東京での修業に区切りをつけ帰郷しました。すでに画家として一人立ちできる技量を身に付けていた天淵は、師の柳園の流れを継ぐ、山水画と花鳥画を得意としました。濃墨で険しい深山の風景を描く一方で、軽妙な筆で民衆の暮らしを伝える作品も描いています。また、風景画の色を抑えた静かて落ち着いた表現の作品に対し、仏画などでは、鮮やかな朱色を用いるなど、あふれるような色彩の作品もあります。

天淵は、子の江森天壽の幼少時代から優れた絵の才能を認め、手ほどきし、天壽が画家として成長する上で強い影響を与えました。明治四十二(一九一〇)年、日本美術協会から多年にわたる優作出品により、功労者として表彰されました。

天淵は、大正十(一九二二)年、六十四歳で亡くなりました。昭和

用語の手引き

- 『和田義盛』 神奈川県三浦市を拠点に活躍し、鎌倉幕府の創建に貢献した。鎌倉幕府初期の有力な御家人の1人
- 『福島柳園』 児玉郡湯本村(現在の美里町)出身の日本画家。多くの門弟を養成し、各界名士との交流も多く“画壇の雄”といわれた。
- 『江森天壽』 江森天淵の子。自然の風姿と情趣を繊細緻密な筆技で描き、花鳥画を得意とする日本画家

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。



深谷市議会議長 松本政義

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日ごろから市議会に温かいご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、現在、地方自治体では人口減少・少子高齢社会の到来など、さまざまな課題に直面し、まちづくりの在り方が大きく問われています。この厳しい環境を乗り越え、魅力あるまちづくりを進めるため、時代を見据えた先見性で、市執行部と知恵を出し合い、市民参画の市政運営に取り組まなければなりません。

市議会も、議員一人ひとりがその役割と責任の重さを自覚し、創意工夫を重ね、豊かで住みやすいまちを目指し、市民の皆さまのご期待に応えるため全力を尽くしてまいりますので、一層のご支援ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

本年が、市民の皆さまにとりまして、幸せで飛躍の年となることを心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

平成28年頭のごあいさつ

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、市民の皆さまには多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。

この1月1日をもって、1市3町が合併し、新『深谷市』が誕生して10年の節目を迎えました。

今年は新たなスタートの年と捉え、昨今問題となっている人口減少に対して、『深谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定し、さまざまな施策に取り組んでまいります。

これからの将来に向けて、厳しい判断を迫られることも多くなると思いますが、市は収入を増やしながら、支出を減らしていき、光輝く深谷市を創り、子や孫の世代へつなげていくために持続的な行政運営を行い、市政の発展にまい進していく所存です。

今後とも、市民の皆さまのご支援とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして、本年が健康で幸多き年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



深谷市長 小島進

ありがとうの手紙



優秀賞 中学生の部 渋沢栄一へ

川本中学校2年(現3年) 新井莉緒さん
小学生の頃あなたのことを勉強しました。あなたは私に「夢」を与えてくれました。大きな夢ではないけれど、小さな夢がたくさん積み重なることで、それが大きな夢となって夢の実現への道が切り開けると信じています。だから、今、目の前にある夢が叶えられるように日々頑張っています。

時には、くじけそうなきもああるけど、あなたが作った『夢七訓』を思い出して乗り越えています。渋沢栄一さん、私に「夢」という生きる希望を与えてくれてありがとうございました。



優秀賞 中学生の部 友へ

深谷中学校3年(現高校1年) 金子創さん
君と出会ったのは小学1年生のときだったろうか。そのころからとても仲が良かったのを覚えています。

中学生になり、部活は違うけれどお互いに頑張り、学力では君の方が上でテスト前に僕ができなくて悩んでいるときに助けてくれて、教えてもらい夜11時過ぎまで一緒に勉強したのを今でも昨日のことに思い出されます。いつの間にか君が僕の目標になっていて、君の背中を見て勉強をがんばってこれました。本当にありがとう。これからもよろしく。